白仁長官歸る

門司から自動車で八幡へ

八日次長以下と協議

九日は各方面へ挨拶に廻る

製鐵所長官白仁武氏は昨日門司から自動車で八幡へ入り次長以下と協議せざるなりしも東京出資八日夜熊々鑑み七日午後東京出資八日夜熊々門司に下車し自動車を驅つて深更八幡に帰着し製鐵所に於て製鐵中の幹部と協議を遂げ中川技師長より詳細な報告を受け種々協議する所あり九日朝は製鐵所に警察警察部長を訪ひて今回の警戒に對する謝辭を述べたる後其他各方面に挨拶を終し製鐵所に帰り今後の善後策に付種々協議されたり（八幡來電）

製鐵所の外廓に

鐵製の忍び返し

外界の侵入に備ふ

九日より一斉に工事を開始せる八幡製鐵所は教育の警官隊の警戒に依り兎も角抑壓されつゝも常態に復せるが尚工場には或物凄き示威的の喊聲漲りつゝあり從來警備の手薄かりし外廓の板塀、煉瓦塀等は八日夜九日朝に掛けて徹夜作業を以て鐵製の忍び返しを裝置し外界よりの侵入に備へたり一方勞働者側は事件の中心と目され七名が各假監獄に附せられたるため幾分氣勢を殺がれたるものゝ如し（八幡來電）

勞友會長

淺原の母

は涙乍ら語る

製鐵所大職場の火元とも目され天下を騒動せしめたる勞友會長淺原鐵三は當年廿四歳の青年にして明治大學を卒業し辯護士試驗を受くべく勉強中の者なるが老母さだは兩眼に涙を浮べ乍ら語る

伜は縛らるゝやうな悪い人間ではありません又若い者から煽てられるやうな人でもありません、伜は辯護士の免狀を執る爲めに一生懸命勉強し警察の人とも多く馴染がありますから彼の不案もよく御存じの筈と思ひます若し伜が赤い着物でも着るやうなことでもあれば……辯護士試驗も仇となり折角勉強させたのも水の泡です

と心配さう、妹の菊代は曰く何も兄は泥棒をして捕へられたと云ふのではないのですから決して恥かし悪しい筈と云ふことはありませんそれが兄一人の意見でかうなつたのではなく何千人と云ふ人の意見が期せずに一致して此事件となつたのですから必ずしも兄許りが悪い者とは思ひません云々（八幡來電）